

平成 23 年度

《第 1 回》

国語

時間 50 分、100 点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一 次の文を読み、後の問い合わせに答えなさい。

「生きるために、食べるためには、労働は生まれた」と言われますが、それはヒト以外の動物も同じで、生きるために食べものを求めて活動しています。ヒトがほかの動物と異なるのは、社会という集団生活をおこなう点ですが、これはサルやゾウや鳥たちに限らず、アリやハチなどの虫たちを含め、多くの動物は集団生活をおこなっているので、単に集団生活だけをとらえて、ヒトをほかの動物と区別するわけにはいきません。

社会を形成するという点にアチャクモクしても、イグンシ的なレベルではサルの集団ほとんどA差異がありません。

(一 X)、ヒトは二足歩行により①前足を自由にしました。つまり手をもち、そのことで自然物を道具にすることができました。さらにみずから手で、その道具を改善することができます。そして新しい素材で新しい道具を生み出すことができます。このプロセス、すなわち道具をつくりだすことができたという点こそが、ほかの動物と明らかにちがい、B一線を画することになったといわれております。サルは身のまわりにあるものを道具として使うことができますが、(一 Y)ことはできないのです。

そして、ここからが大事なところです。道具によつて、自分ひとりあるいは子どもを養うことのみならず、働けなくなつた、つまり食べものを自分でウエルことができます。つまり、老いた親を、ヒトは養うことができるようになります。親のめんどうを見るところこそが、ヒトがほかの動物と決定的に異なる点です。

もちろん、以前はいまのような長寿が約束されたわけではないので、働けない年齢になつたら基本的には自然に死んでいくというのが大部分でしたが、それでもいわゆる生産不能になつた高齢者たちも共存できる社会を、人類はついぶん前からもつていていたようです。つまり、(一 Z)の利用と開発によつて、ヒトは生産者と後継者以外も生活できる余剰生産が可能になります。老親たちが生存できたわけです。(中略)

このことと逆に、余剰生産が不可能な場合は、生産者とその後継者以外の老親たちがエソツセソして死んでいつたという歴史も残つています。(中略)

人類にとって働くということは、子どもだけではなく高齢者など生産能力の乏しい人も、仲間として生き延びるために不可欠な基本活動と位置づけることができます。

男女の能力および特性のちがいによって、働き方や労働の内容は異なつたでしょう。職業あるいは労働などという概念ができたのは、長い人類史の中ではつい最近のことです。このようない理解に立つと、いわゆる生産能力がない人や乏しい人が暮らせる社会こそが、人類が長年求めてきた夢の社会なのです。②豊かな社会とはこの夢が実現した社会のことだと、私はオカクシンしています。

「みんなでつくるバリアフリー」光野 有次

問一 二重線部ア～オのカタカナを漢字で答えなさい。

問二 点線部A「差異」B「一線を画する」の意味として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

A 差異

- | | | | |
|------|------|------|------|
| A 同意 | イ 相違 | ア 種類 | ウ 区別 |
|------|------|------|------|

B 一線を画する

- | | | | |
|----------------|-------------|------------|-------------|
| ア はつきりと区切りをつける | イ ある分野で活躍する | ウ ある分野から退く | エ 相手を認め、ゆづる |
|----------------|-------------|------------|-------------|

問三 (一 X)に入る言葉として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ところが イ もちろん ウ つまり エ 例えば

問四 傍線部①「前足」と同じ意味で使つて いる言葉を本文中より五字で抜き出しなさい。

問五 (一 Y)に入る言葉を本文中より五字で抜き出しなさい。

問六 (一 Z)に入る言葉を本文中より漢字二字で抜き出しなさい。

傍線部②「豊かな社会」とはどんな社会ですか。本文中より二十字で抜き出しなさい。

問八

波線部「ヒトがほかの動物と異なる」とあります。筆者はどの点が決定的に異なると考えていますか。本文中の言葉を使って三十字以内で説明しなさい。

問九

本文の内容に合うものには○、合わないものには×をつけなさい。

ア ヒトとほかの動物が異なるのは、集団生活をしているかいないかの違いである。

イ ヒトとサルの違いは、道具を使うか使わないかの違いだと見える。

ウ ヒトは、自分以外の老親たちをも養うことができる。

オ ヒトは、昔から長寿が約束された動物であった。

二 次の文を読み、後の問いに答えなさい。

小学校六年生のとき僕には、すごくいやなのに何故か気になる友達がいた。黒沢すすむという名前だった。

僕は小学校五年のとき九州の福岡からいきなり北海道の帯広に転校した。帯広の冬はマイナス三十度を越える極寒で福岡の夏との気温差はゆうに六十度以上あつたのだ。帯広は、十勝平野の真ん中辺りにあり、人口十五万人ぐらいの街で、内陸に位置するため冬は寒く、夏は反対にすごく暑かつたのである。

黒沢はその帯広で一番最初に僕に話しかけてきた奴だつた。大体、a ケイケンからいえば、どこの学校にもそういう気安い奴は一人や二人はいるもので、もう一つおまけにいっとけば、そういう奴ほど後に b テンテキとなる人物であるのだ。

「ようよう、あれかい福岡つてのは、雪はふんのかい」

黒沢のしやべり方は小学校六年生とは思えないほどおやじくさかつた。僕は彼のことを、心のなかで（ 1 ）、おやじこぞうと呼んでいたのである。

「うん、降るよ」

僕がそう答えると黒沢は、おうおう、と首を振るのだ。雪がふんだつてよ、と（ 2 ）周りのだれかに同調を求めるのである。彼は僕がいうことをしつこくりピートしてはクラス中に通訳するのである。転校生と最初に I コンタクトを取つたことを（ 3 ）自慢するかのごとく。「それであれかい、冬はやつぱり零下になるのかい」

仕方ないので僕が、うんたまになるよ、と答えると、

「たまになるんだつてよ」

とまた皆にしかも大声でそういうのだ。

「何度？ねえ、何度になるんだい」

①見世物にされていいるようで恥ずかしかつたけれど、転校生ということで②さすがに僕はおとなしくしていいたのである。

「マイナス二度とか、五度とかかな・・」

「マイナス二度？きいたかい、マイナス二度だつて、何だやつぱり九州だよな、いいかいよ

くおぼえておきな、帯広はな、マイナス三十度になるんだぜ」

そこで僕が驚かなければ、僕は後々いじめられることになるのだ。僕はそれほど馬鹿じやないから、へえ、すごいね、とにげておいた。転校生の教訓その一、一 X 一である。とにかく転校してしばらくはそんなふうに黒沢の質問せめにあつたり、何故かわからないが彼に連れられて他の組へ挨拶回りをさせられたりしたが、まあおかげで僕は学校の他の連中ともそれほど時間もかからずに打ち合つてけることができたのである。

黒沢はすつかり③僕のガイド兼兄貴分になつてゐるつもりのようで、

「ようよう、何か d コマつたことや、分からぬことがあつたら聞いてくれよな。なんでも俺が教えてやるからさ」

と、ことあるごとにⅡ恩に着せるのだつた。

まあそんなわけで、めでたく？黒沢は僕の帯広での最初の友達になつたのである。

（中略）

黒沢と仲が良かつたのは、僕が帯広に転校した最初の一、二ヶ月ほどではなかつたかと記憶している。仲がいいといつても、また、黒沢が勝手に世話を焼いてくれたわけで、僕としてはやはりなじみづらいタイプではあつたようだ。

学校に徐々にeナれてくるに従つて、僕は他に気の合う仲間たちができたのである。黒沢ともそれなりに仲良くしてはいたが、他の連中が黒沢をやや敬遠している節はあつたのだ。なんでも自分のペースで進めてしまう彼のやり方は、あまり好かれなかつたのかもしれない。まあともかく、僕はへ4)黒沢から離れていつたのである。

僕はクラスの他の連中と付き合いだしたわけだが、その輪の中には何故か黒沢ははいつてこなかつた。今になつて考えてみれば、多分黒沢もかつてはその輪の中にいたにちがいない。しかしその性格のせいで、④皆から嫌われたり、敬遠されたり、いつの間にか弾かれてしまつたのだろう。彼が僕に最初に声をかけてきたのも、うなずける話ではある。

辻 仁成『そこに僕はいた』

問一 二重線部 a ↗ e のカタカナを漢字で答えなさい。

問二 (1) ↗ (4) にあてはまる言葉として適切なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だんだんと イ やっぱり ウ まるで エ こつそり オ いちゃいち

問三 波線部 I・IIの意味として適切なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

I コンタクトを取つた ア ふれ合つた
エ ウイケンかした
眼鏡をはずした
遊び約束をした

問三

II 恩に着せる

ア ウイケア
相手にありがたく思われる
他人からの恩をありがたく思う
エ ウイエス
恩に感謝せずかえつて害を与える
人からの恩に報いる

問四 一 X 一 には「その土地ではその環境に合わせておとなしくしていた」という意味のことわざが入ります。次のなかから適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 朱に交われば赤くなる
イ 船頭多くして船山に登る
ウ 笑う門には福来る
エ 郷に入れば郷に従え

問五 傍線部①「見世物にきれていいで恥ずかしかつた」とあります。僕がこのように感じるのは、黒沢のどういう行動からですか。黒沢の行動が具体的に表れている部分を一文を探し、初めの四字を答えなさい。

問六 傍線部②「さすがに僕はおとなしくしていた」とあります。僕はなぜおとなしくしたのですか。「から」という形に合わせ、本文中より十五字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線部③「僕のガイド兼兄貴分」とあります。僕がこのように黒沢を感じ取つたのは黒沢のどのような行動を受けたからですか。その行動が具体的に表れている部分を本文中より五十字以内で探し、初めと終わりの四字をそれぞれ抜き出しなさい。

問八 傍線部④「から嫌われたり、敬遠されたり、いつの間にか弾かれてしまつたのだろう」とあります。僕はその原因をどのように考えていますか。その考えが表れていますか。本文を本文中より探し、初めの四字を答えなさい。